

創立20周年記念誌

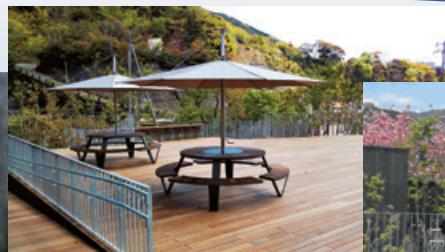
— H24～R3 10年間の歩み —



令和4年1月
湯河原観光ボランティア

観光立町湯河原、この10年の変遷

湯河原惣湯誕生（令和3年4月）



新たな観光拠点 “惣湯玄関テラス”

新しい風を吹かせよう

湯元通り
再整備（H31.1）



老舗旅館の復活（H31.2）

大型会員制リゾートホテル
オープン（H29.3）



駅前広場改築（H30.10）



美術館カフェテラス整備（H30.3）



平松礼二公開アトリエ
オープン（H29.10）

目次

頁

● 会長挨拶	湯河原観光ボランティア会長 林 明徳	1
● 祝辞	湯河原町町長 富田 幸宏	2
	一般社団法人 湯河原温泉観光協会会长 石田 浩二	3
	二・二六事件資料館・光風荘保存会会长 板垣 博夫	3
	湯河原町役場 政策グループ参事 内藤 喜文	4
● 顧間に就任して	湯河原観光ボランティア顧問 加藤 雅喜	4
● 設立からの歩み		5
● 活動の思い出		10
● 光風荘に携わって		16
● 研修活動の足跡		17
● ジオパーク活動への取り組み		19
● 座談会「現状への想いと将来への展望」		22
● 故人を偲ぶ		25
● 会員紹介		26
● 歴代の役員		30

会長挨拶 創立 20 周年を迎えて

湯河原観光ボランティア会長

林 明徳



わが湯河原観光ボランティアは、令和 3 年(2021)9 月 27 日に創立 20 周年を迎えることが出来ました。これもひとえに富田町長、地域政策課、観光課を初めとする町役場の皆様、(一社)湯河原温泉観光協会の皆様、長年にわたり無料バス券をご提供いただいている箱根登山バス(株)様のご支援、ご指導の賜物と深く感謝申し上げます。

振り返りますと、我々のガイド活動は 20 年前の平成 13 年(2001)10 月に、その年に出来た日本最大級の足湯「独歩の湯」のある万葉公園から始まりました。奇しくも 20 年後の令和 3 年 4 月万葉公園は、湯河原温泉再興計画の切り札として再整備工事が完了し「湯河原惣湯」として、旧観光会館は「玄関テラス」として新しい姿で再デビューしました。

令和 2 年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止対策で全く観光ガイドが出来ませんでした。令和 3 年度に入っても未だ収まっておりませんが、コロナ感染症と付き合いながら、新施設で新たな形のボランティア活動を展開し始めています。

日本社会の高齢化と同様にわが組織でも会員の平均年齢は年々上昇し、令和 3 年 4 月現在 76 歳に到達しました。会員数の伸び悩み(29 名)と高齢化の中で、箱根ジオパークの活動が更に加わり、ガイド活動に十分対応しきれていないのが現状です。

今後の課題として会員数の増加と平均年齢の上昇停止・引き下げは最優先課題です。スキル面でのガイドの専門化・レベルアップは勿論のことですが、海も山も川も温泉もある湯河原町で、多くの人に楽しんでいただけるお手伝いをするのも我々が担う役目だと思います。

記念誌は平成 24 年に 10 年記念誌を発行し今回は創立 20 年の記念誌です。両記念誌で創立から現在までの活動の痕跡をたどることが出来るようにしたつもりです。

これからも我々の活動が湯河原町の観光振興、地域の活性化の一助になれるよう努力して行きたいと思います。

湯河原観光ボランティア設立 20 周年を祝して

湯河原町 町長

富田 幸宏



湯河原観光ボランティア創立 20 周年記念誌の発刊、誠におめでとうございます。

重みある歴史をお持ちになりながら、なおご努力を続けられ、新しい歴史を築いていかれる皆様の姿に感銘いたします。

皆様には日頃より、光風荘・ぶらりお休み処の運営に対するご協力、観光名所の案内など、精力的にご活動いただいており、また、令和 3 年 2 月 5 日に日本ジオパーク委員会から再認定を受けました箱根ジオパークにつきましても、ジオサイトである各名所を案内する観光ガイドとして大変ご尽力いただき、誠にありがとうございます。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言が発出されるなど、感染症拡大防止対策として、ガイド活動につきましても、長期休止を余儀なくされ、大変ご苦労されたことと思います。

しかしながら、万葉公園が「リビング&ガーデン」をコンセプトに、自然の中で快適に過ごせる空間へと新しく生まれ変わり、リニューアルオープンいたしましたので、平成 30 年に完成した温泉場情緒が息づく湯元通りや、民間事業者による富士屋旅館の再生、大型宿泊施設の開業とともに、今後の新たなガイド活動の一助となれば幸いです。

皆様には、より多くの方々に湯河原へ足を運んでいただくなため、温泉と豊かな自然に囲まれた湯河原の魅力を発信していく一役を担い、これからもまちづくりを支えていただきますよう、心からお願ひ申し上げます。

結びに、湯河原町観光ボランティアの益々のご発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、記念誌発刊へのお祝いの言葉とさせていただきます。

祝　辞

一般社団法人　湯河原温泉観光協会会長

石田　浩二



この度、湯河原観光ボランティアが創立 20 周年を迎えることを心よりお喜び申し上げます。

観光ボランティアの皆様には、湯河原温泉をはじめて訪れられたお客様、或いは幾度となくお越しになるお客様、それぞれの多様なニーズに合ったご案内を継続していただいており、観光協会へ多くの賛辞が寄せられています。

これも偏に会員の皆様の「おもてなしの心」と、日頃から勉強会・研修会を重ねていただいた深い知識の賜であると思っております。観光業界を代表いたしまして御礼申し上げます。

昨今のコロナ感染症により、人との接し方が変わりつつありますが、これからも、映像やネットからでは得られない知識・情報をお客様にお伝えしていただきますようお願い申し上げます。

会員の皆様におかれましては、ご健勝に十分留意されるとともに、貴会の益々の発展をご祈念申し上げ、創立 20 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

二. 二六事件資料館・光風荘保存会会長

板垣　博夫



湯河原観光ボランティア創立 20 周年を迎えることを心からお祝い申し上げます。

故山本初代保存会長は「光風荘」を保存する事に、二つの目的をお持ちでした。一つは光風荘を町の史跡として後世まで語り継ぎたい。二つ目は光風荘に関する人の遺品や資料を多く集め、記念館として町の歴史上の観光名所にする事でした。

今後とも観光ボランティアの皆さんには、語り部として光風荘をご案内いただき町の観光の発展に貢献する事をお願い致します。

只今コロナ禍で御案内もままならぬ状況ですが、この時こそ二. 二六事件について研鑽されご案内できる日に備えていただければと思っている次第です。

最後に、湯河原観光ボランティア設立 20 周年を契機により一層の飛躍と発展を祈念し、発刊へのお祝いの言葉とさせていただきます。

内藤 喜文

この度、湯河原観光ボランティアが設立 20 周年を迎えたことを、心からお祝い申し上げます。

また、日頃、観光面において、行政では手の届かない「観光サービス」だけでなく、行政からの多くのお願いにもご対応していただき、町民を交えた観光立町の推進の一翼を担っていただいていることに感謝申し上げます。さらには、皆さまのご活躍が、まちづくりへの活力と歴史・文化の継承をより大きく、より豊かなものにしていただいており、改めて感謝申し上げます。

私自身、観光ボランティアの皆さまとは、行政の立場から 10 年近くのお付き合いになりますが、年々成長していく姿を見し、とても頼もしく、また誇らしく感じているところでございます。

個々の会員の皆さまでは、地域の歴史や文化の知識を極めたい、観光客と接したい、会の中で楽しみたい等、それぞれの思いで観光ボランティアに参加していることと思います。そのような多様性を受け入れ、それぞれの思いを活かし、会として集約していくことには、大変なご苦労があることと存じますが、これからも、貴会への参加の目的は違えど、多くの会員を集め、楽しく無理のない活動をしていくことに、行政として応援していきたいと考えております。

また、近年の新型コロナウィルス感染症の影響により、観光案内も従来の形で実施できるかが不透明な状況ではございますが、観光ボランティアの皆さまにおかれましては、持ち前のアイデアで、「with コロナ」に見合った新たな形で継続されていくことを確信しております。

結びに、貴会が主催する忘年会では、面白企画が盛りだくさんで、変な緊張感をもって参加させていただいておりましたが、自主的にボランティア活動を行う方々の集まりは、ボランティアに限らず、様々な面で面白さを追求する積極性があることも感じておりました。今後も、その積極性を活かした活動を進められることを期待し、お祝いの言葉といたします。

顧間に就任して

湯河原観光ボランティア顧問

加藤 雅喜



湯河原に住み始めて 10 年ながら、顧問にお呼び頂いた加藤です。コロナ禍とスマホ普及で、全国の観光ボランティア活動は危機的状況です。鉄道やバス路線が廃止され、文学・歴史よりグルメが注目される時代に、自分は何が出来るでしょうか？ 町民・子供たちへ伝える歴史資料の整備と「光風荘」「郷土資料館」の維持が当面の目標ですが、観光客や私達の子孫へ湯河原の歴史の 1 ページを紡ぎ出す皆様のお手伝いをしたいと考えています。



設立からの歩み

・平成 11～23 年までの歩み（10 年誌より）

年度	月・日	活動と出来事
平成 11 年～12 年		<ul style="list-style-type: none">・町広報誌で観光ボランティア募集、約 20 人でガイド研修開始
平成 13 年（2001）	9. 27 10. 6	<ul style="list-style-type: none">・湯河原観光ボランティア設立総会、初代会長森本浩吉氏・万葉公園散策待受けガイド開始
平成 14 年（2002）	4. 10 10. 1 11. 6 1. 27 3. 27	<ul style="list-style-type: none">・第 1 回総会、第 2 代会長、永山京氏就任・予約ガイド開始、万葉公園、歴史、文人墨客のコース設定・駅前観光案内開始・湯河原まちづくりボランティア協会設立（会長河崎元秀氏）、観光ボランティアは協会に所属・第 2 回総会、板垣博夫氏会長就任
平成 15 年（2003）	6. 3 7. 5 3. 27	<ul style="list-style-type: none">・かながわボランティアガイド協議会に加入・二・二六事件資料館光風荘館内ガイド開始・第 3 回総会、板垣博夫氏再選
平成 16 年（2004）	3. 29	<ul style="list-style-type: none">・第 4 回総会、板垣博夫氏再選
平成 17 年（2005）	11. 9 2. 5 3. 29	<ul style="list-style-type: none">・かながわボランティアガイド協議会訪問研修湯河原で開催・光風荘来館者 1 万人達成・第 5 回総会、板垣博夫氏再選
平成 18 年（2006）	7. 12 10. 26 3. 26	<ul style="list-style-type: none">・二・二六事件 15 士 71 回法要に初参列・企画ガイド（＊1）「湯河原の歴史を訪ね源泉掛け流しの湯を楽しむ」開催、参加者 35 名・第 6 回総会、規約改定で役員任期 2 年、同一職務 3 選禁止
平成 19 年（2007）	8. 10 11. 20 3. 31	<ul style="list-style-type: none">・源頼朝開運街道案内板について町観光課と協議・企画ガイド（＊1）「秋の湯河原散策」参加者 31 名・第 7 回総会、板垣博夫氏会長再選
平成 20 年（2008）	11. 12 1. 25	<ul style="list-style-type: none">・企画ガイド（＊1）「湯河原の歴史と文学を訪ね、」湯河原温泉を楽しもう」参加者 56 名・光風荘来館者 2 万人達成
平成 21 年（2009）	4. 1 5. 15 3. 25	<ul style="list-style-type: none">・第 8 回総会・観光ボランティア育成講座、新人 10 名加入・第 9 回総会、杉本裕次氏会長就任
平成 22 年（2010）	11. 25 3. 11	<ul style="list-style-type: none">・観光ボランティア創立 10 周年記念バス旅行「千葉頼朝の上陸地他を訪ねる」会員 26 名、土肥会 4 名・東日本大地震発生
平成 23 年（2011）	4. 21 5. 16 5. 19 8. 9 1. 30 2. 23～3. 11 3. 29	<ul style="list-style-type: none">・第 10 回総会・箱根ジオパーク推進協議会設立総会が開催され、4 名参加・光風荘来館者 3 万人達成・第 1 回箱根ジオパークガイド講座が開催され、7 名が参加・湯河原観光ボランティア創立 10 周年記念誌発行、会員数 33 名・町立図書館主催「湯河原と 2.26 事件」展示に協力・企画ガイド（＊1）「菜の花と源泉浴」（上野屋）参加者 50 名

*1 企画ガイド：予約ガイドとは別にスポット的に立案した有料ガイド

・平成 24 年～令和 3 年の歩み

年度	月・日	活動と出来事
平成 24 年 (2012)	4. 19 5. 8 6. 14 8. 22～23 11. 2 11. 29 3. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・第 11 回定期総会開催、会長杉本裕次氏再任 ・人車鉄道の跡を歩く、城口駅—吉浜駅—門川駅 参加者 9 名 ・大雄山最乗寺・二宮尊徳記念館研修 参加者 17 名 ・箱根ジオパーク認定審査 ・箱根ジオパークが日本ジオパークより認定 ・伊豆蛭ヶ小島・修善寺研修会 参加者 20 名 ・企画ガイド (*1) 「千歳川沿いの菜の花鑑賞・福泉寺・万葉公園」 参加者 29 名
平成 25 年 (2013)	4. 25 5. 16 5. 23 6. ～7. 10. 3	<ul style="list-style-type: none"> ・第 12 回定期総会 ・鎌倉研修 参加者 14 名 ・大山巡り古道を歩く研修全 8 回参加者延 48 名 ・入門講座 受講者 10 名 ・町内史跡・神社・仏閣巡り
平成 26 年 (2014)	4. 2 5. 19～28 5. 22 10. 28～29 11. 18 1. 20 3. 25	<ul style="list-style-type: none"> ・「温泉場お休み処」開所式 ・第 13 回定期総会、役員定数変更増、会長板垣博夫氏選任 ・入門講座全 5 回 受講者 7 名 ・ジオガイドマニュアル検討会、ハコジロウ来湯 ・日本ジオパーク関東大会を箱根で開催、ジオツアーフ「湯河原・真鶴コース」への参加者 26 名 ・ジオモニターツアー：不動滝・湯河原温泉散策ガイド参加者 40 名 ・県立温泉地学研究所で湯河原温泉の学習と万葉公園でジオガイド実践学習 ・ジオガイド実践講座「鎌倉幕府開運コース」参加者 24 名
平成 27 年 (2015)	3. 31 4. 2 5. 18～29 5. 27 9. ～2. 11. 10 3. 5～6	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオガイドマニュアル湯河原完成 ・第 14 回定期総会、予約ガイド有料制採用 ・湯河原温泉散策を予約コースに追加、駅前ガイド廃止 ・ユニフォーム更新、全員集合写真実平像前で撮影 ・入門講座 受講者 4 名 ・湯河原まちづくりボランティア協会のチャレンジデーハイキングに初参加 ・神奈川ガイド協議会主催ガイド研修会「大山巡り古道を歩く」に参加 ・中村一族の館跡を訪ねる研修 参加者 22 名 ・湯河原梅林無料ガイド実施 ガイド延 11 名、顧客延 60 名
平成 28 年 (2016)	4. 7 5. 17～ 5. 27 5. 31 8. 22～24 10. 10～12 11. 16 12. 3 2. 17～18 2. 28～3. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・第 15 回定期総会、会長に板垣氏再任、役員定員 10 名、会員数 34 名 ・入門講座全 6 回 受講者 9 名 ・町内史跡・神社仏閣巡り研修 ・箱根ジオパークガイド 3 (湯河原) 完成 ・箱根ジオパーク再認定審査、南足柄市が加わる ・ジオパーク伊豆半島全国大会に 4 名参加、11～12 日に箱根ジオパークからの支援として熱海・湯河原・真鶴コースのガイドに参画 ・かながわガイド協議会合同研修会、湯河原で開催、来場者 18 団体 96 名 ・光風荘来館者 5 万人達成 ・第 22 回全国梅サミット、湯河原梅林で開催 ・湯河原梅林無料ガイド、観梅列車 (JR, 小田急) と一般客、延 4 日間 ガイド延 33 名

年度	月・日	活動と出来事
平成 29 年 (2017)	4. 13 5. 17～29 10. 1 11. 7 2. ～	<ul style="list-style-type: none"> ・第 16 回定期総会、会員数 35 名 ・入門講座 受講者 4 名 町内史跡巡り参加者 24 名 ・湯河原駅前広場完成(隈研吾建築都市設計事務所設計) ・蛭ヶ小島、北条時政館跡など史跡探訪 ・予約 6 コースのガイドマニュアル見直し整備を全員で実施
平成 30 年 (2018)	4. 11 5. 11～6. 8 6. 14 6. 20 10. 11 12. 20 2. 2	<ul style="list-style-type: none"> ・第 17 回定期総会、会長に林明徳氏選任、会員数 34 名 ・入門講座、受講者 13 名 ・町立美術館で会員研修実施 参加 24 名 ・毎日新聞「新 20 世紀遺産」シリーズで光風荘の取材 ・県西地区観光ボランティア合同研修会、湯河原で開催 8 団体 54 名参加 ・明治 150 年記念行事・大磯庭園ガイドツアー 参加者 15 名 ・日経プラスワン記事“早春の花”で湯河原梅林 1 位
平成 31 年 (2019) 令和元年	4. 11 4. 16 5. 1 5. 24～ 5. 28 5. 31 7. 11 10. 9 11. 17～18 12. 11 1. 12 2. 末～	<ul style="list-style-type: none"> ・第 18 回定期総会開催 ・奥湯河原、文人宿加満田で研修、参加者 17 名 ・令和に改元 ・入門講座、受講者 4 名 ・かながわガイド協議会訪問ガイド・湯河原温泉 ・町内史跡巡り研修会、参加 20 名、町議 2 名 ・伊藤屋旅館研修、参加 17 名 ・千葉県野田市関宿 鈴木貫太郎記念館、関宿城博物館研修、参加 31 名（町ボラ他グループ 4 名、町議 1 名含む） ・ジオパーク伊豆大島関東大会に 3 名参加 ・読売新聞の取材受ける。 ・読売新聞「神奈川のレジェンドシリーズ、光風荘でのボランティア活動について」掲載 ・コロナ（＊2）感染防止対策で光風荘、お休み処活動休止、追って 3 月から全ての予約ガイド休止
令和 2 年 (2020)	4. 7～5. 25 5. 16 7. 22 7. 27 10. 14～16 11. 28～29 1. 8～3. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ（＊2）感染防止対策で緊急事態宣言、神奈川県は指定区域 ・第 19 回定期総会（書面総会）開催、会長林明徳氏再選、会員 32 名 ・第 1 回全員集会開催（活動再開）、ガイド活動は休止継続 ・万葉公園再整備工事等説明会 ・箱根ジオパーク再認定審査(4 年ごと 2 回目) ・奥湯河原紅葉散策会員研修、2 日間で 23 人参加 ・コロナ（＊2）感染防止非常事態再度宣言、神奈川県は指定区域
令和 3 年 (2021)	4. 21 4. 27 4. 20～8. 1 5. 28～6. 18 7. 22～8. 1 7. 23～8. 8 8. 2～9. 30 8. 24～9. 5 10. 1 1. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・第 20 回定期総会開催、会員 29 名 ・万葉公園再整備 湯河原惣湯竣工式、会長出席 ・コロナ（＊2）感染防止まん延防止等重点措置、神奈川県は指定区域 (湯河原は措置区域外) ・入門講座全 8 回 受講者 5 名 ・コロナ（＊2）神奈川版緊急事態宣言（全市町が重点措置区域） ・2020 東京オリンピック開催（コロナ禍で異例の 1 年遅れで開催） ・コロナ（＊2）緊急事態宣言 ・2020 東京パラリンピック開催（コロナ禍で異例の 1 年遅れで開催） ・ガイド活動再開 ・湯河原観光ボランティア創立 20 周年記念誌発行、会員数 29 名

*2：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の略

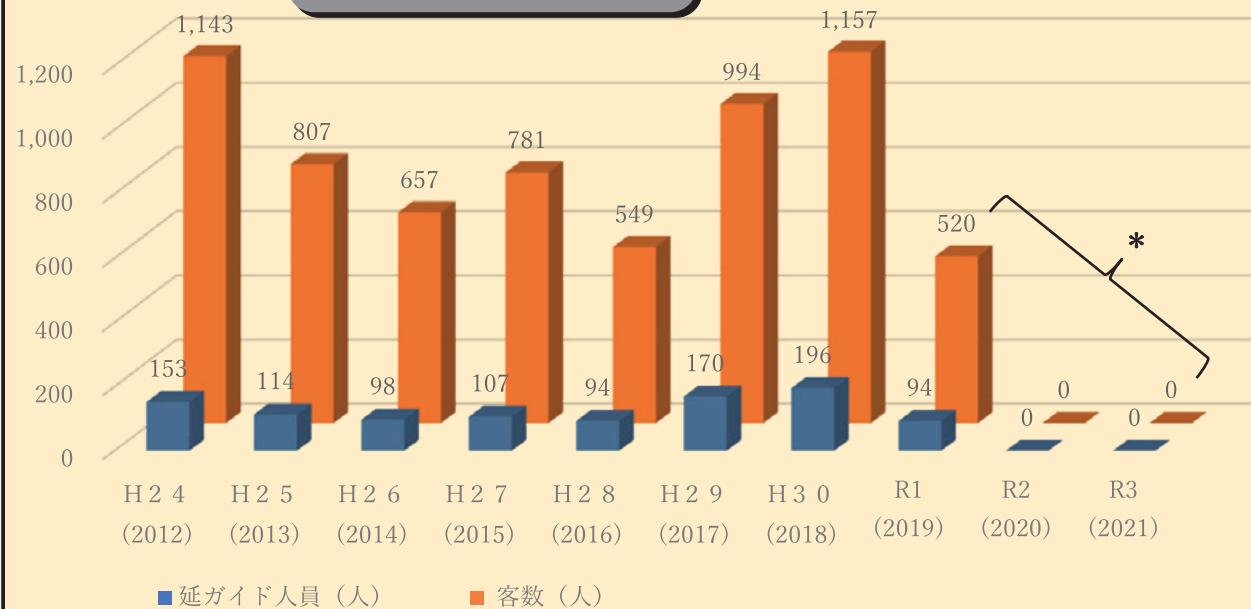


活動実績 (R3 年度は 9 月までの集計)

予約ガイド

商品化されたコースを、お客様の予約に基づき行うガイド
(H27.4 に有料化)

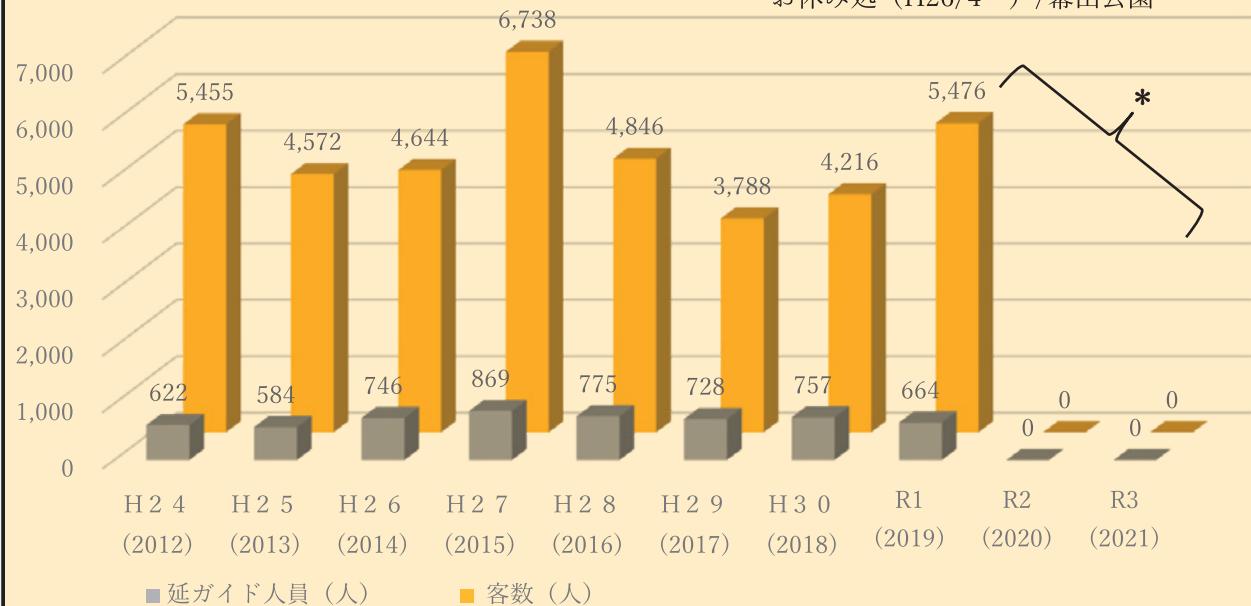
コース：温泉場散策/万葉公園/光風荘/
文人墨客/歴史/湯河原梅林



待受けガイド

ガイド者が拠点に待機し、お客様をガイドする無料ガイド 土・日・祝日に実施

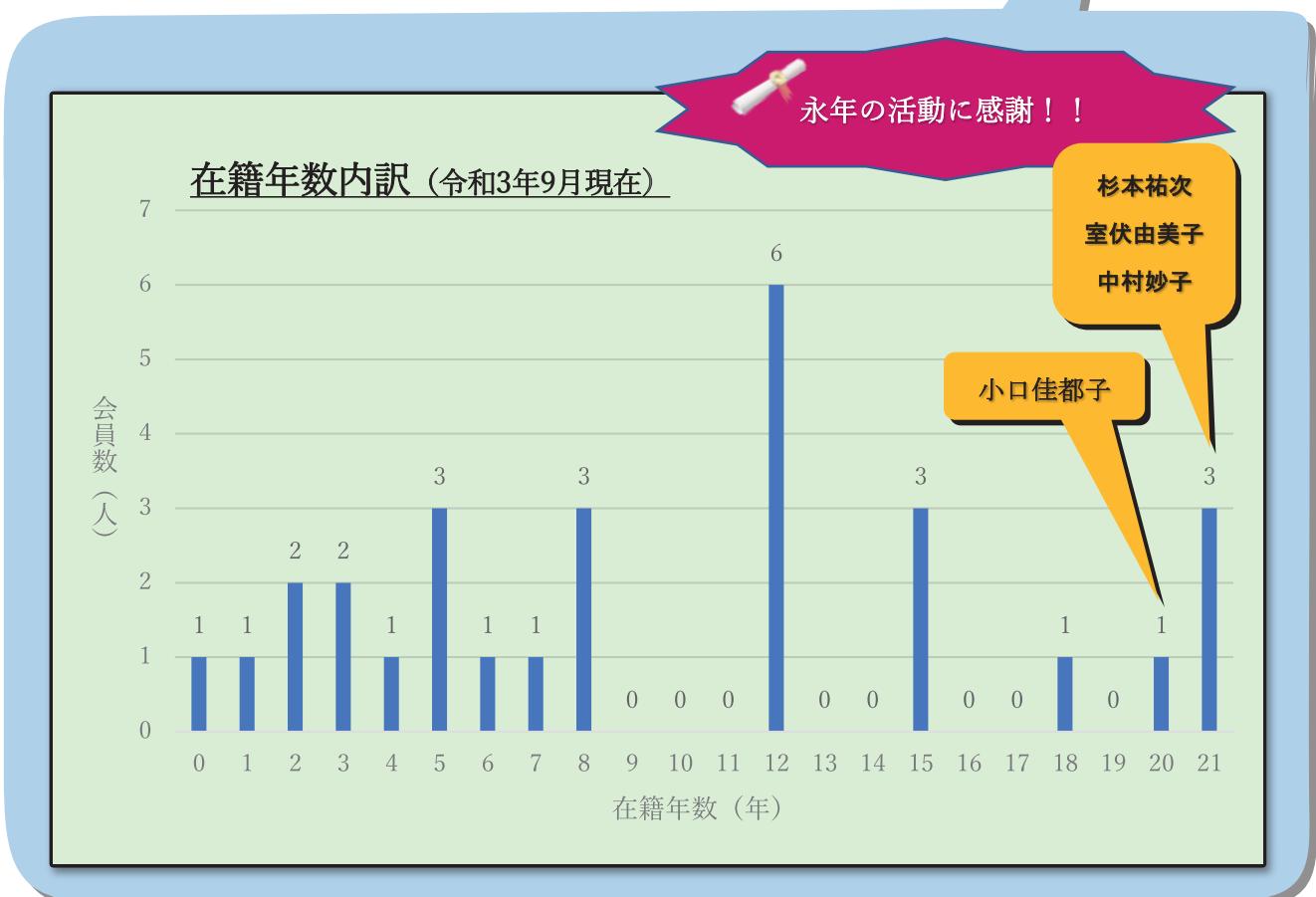
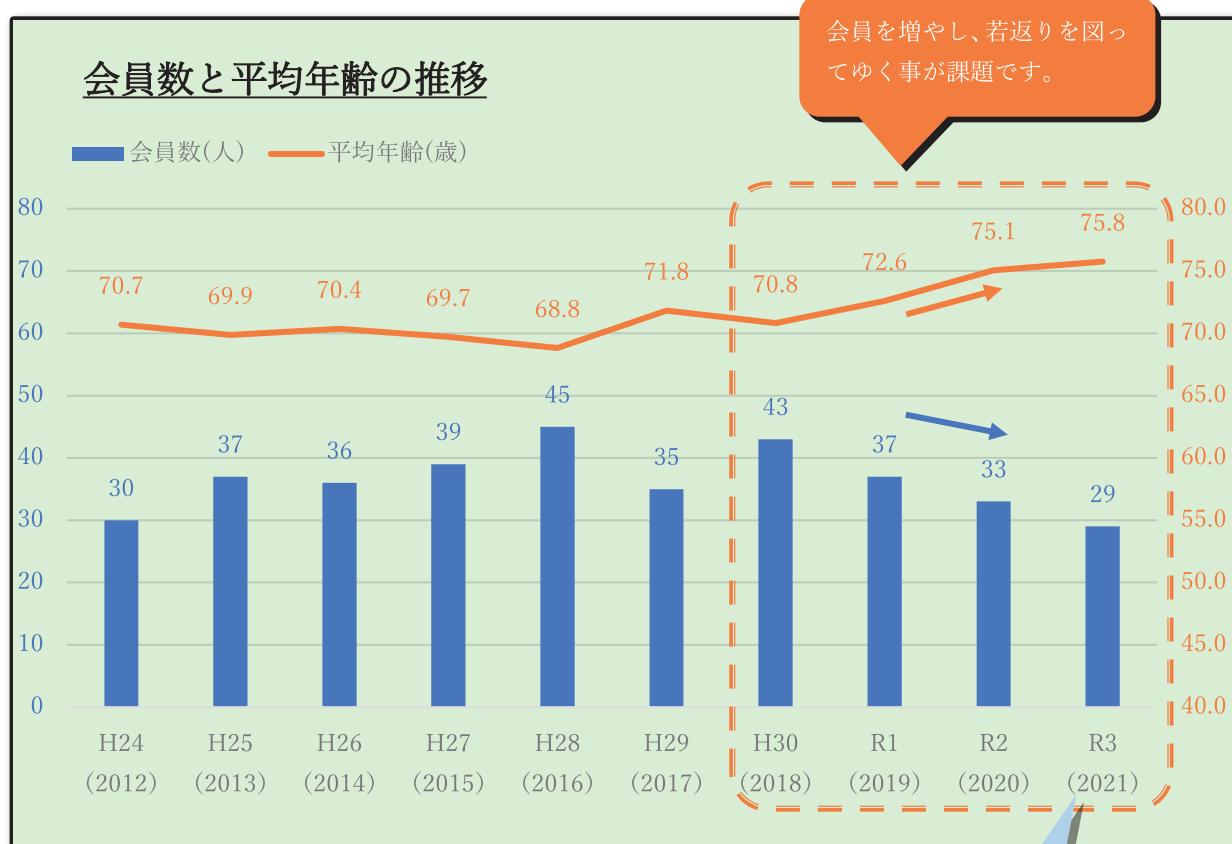
拠点：万葉公園/光風荘/駅前案内 (~H27.4) /
お休み処 (H26/4~) /幕山公園



* : R2/3～R3/9 コロナ対応で活動停止



会員データ





活動の思い出



～写真で見る観光ボランティア活動～

ガイド活動



各種予約ガイド



チャレンジデー ミニハイク参加



梅林無料ガイド



光風荘土・日・祝日無料ガイド

2.26 特別開館



万葉公園無料ガイド



お休み処

(休憩と観光情報提供)

会員のスキルアップ活動



門川駅跡を訪ね (H24)



鎌倉研修旅行 (H25)



美術館研修 (H30)



奥湯河原温泉研修 (R2)

かながわガイド協議会・県西ガイド協会との交流

藤沢 (R1)

二宮
(H27)



綾瀬
(H29)



大磯 (H29)



小田原 (R1)



県西ガイド協会 湯河原大会 (H30)



町と共に歩む

三上冴子

平成 15 年 1 月に「湯河原まちづくりボランティア協会」が町の主導で発足し、それまで単独で活動していた各ボランティア団体は皆その傘下に入りました。そのまちづくりボランティア協会の役員を H26 年度より担い活動しています。町の年間イベント 2 月「梅の宴」、3 月「オレンジマラソン」、4 月「土肥祭武者行列」、5 月「チャレンジデーハイキング」「さつきまつり」、11 月「湯河原文学賞吟行会」や、年間を通しての「駅前お見送り」「お休み処での案内」等に観光ボランティア会員として参加しながら、まちづくりボランティア協会の役員として手工芸展で各グループへ展開して編み物、絵手紙、鎌倉彫等沢山の力作を出品して頂いたり、パークゴルフ大会では各グループと 2 日間の練習日を設けグループ間の交流を計りながらも町長からの賞品を目指したことなどが印象深く思い起こされます。

湯河原に来て 15 年、これらの活動を通じて、湯河原を深く知ることが出来た事や、多くの人の交流が活力となり充実した日々を過ごせている事に気づかされています。これからもワイワイガヤガヤ多いに楽しくやって行きたいと思っています。



第 22 回全国梅サミットに参加される首長の方々を迎える（H28）



パークゴルフ大会（R1）



手工芸展で来場者に作品説明（H29）



オレンジマラソン受付（H27）

会員出品作品の数々





梅の宴 無料ガイドに携わって

古館 美恵子

1年間の観光祭りのトップを飾る「梅の宴」では、平成27年より期間中2日間の無料ガイドの日を設け、お客様へのおもてなしを行なっています。平成29年にこの無料ガイドに参加しました。入会の翌年になります。初めての経験ですので勝手が分からず、まずは受付テーブルの処でパンフレットを渡したり、無料ガイドの案内をしたりと先輩方の対応をまねする事から入りました。少し雰囲気に慣れてきたところで先輩のガイド同行し、山の斜面の登り下りで足を踏み外して怪我をしないようなどと注意をはらう補佐的な事をしながらガイドの実際を体感しました。今、振り返って見ると懐かしい思い出となっています。

湯河原梅林の特徴は雄大な幕山の自然を背景に抱いていることだと思います。お客様にはそのところを強調するガイドを心がけています。幕山はいつ頃どう生まれたのか、名前の由来などを含めて梅林の紹介をします。そしてそれを体感出来る梅林最高地点へ行くと多くのお客様が感動してくれます。「良かった！」と感じる時です。素晴らしい梅林ですね、大切にしたいです。



多くの先輩に支えられた無料ガイドの日



梅林最高地点からの眺めはおすすめですね



武者行列に携わる

柴山 秀男

武者行列を主催する土肥会は昭和5年に発足したと聞き、その古さに驚いた。土肥村が旧湯河原町となって僅か数年のことです。頼朝の旗揚げについては石橋山の合戦を知るくらいの知識だったのが湯河原に移り住んで初めて土肥実平の存在とその活躍を知った。その活躍を敬い挙行しているのが「武者行列」です。

毎年武者行列の当日にお客様への案内ビラ配付や声掛けに観光ボランティアから4名がお手伝いしているとの事。観光ボランティア入会の翌年に私もその一人として参加した。鎧甲冑を身にまとった馬上の土肥実平と源頼朝、輿に乗った頼朝夫人政子、従者や稚児の行列を一人でも多くの観光客に見て欲しくて一生懸命でした。湯河原の歴史上重要な行事の再現に携われて、充実した1日であった。



「我こそは・・・」頼朝役の町長



ビラ配布後のひととき
(頼朝が戦勝祈願した五所神社にて)



さつき祭りに参加して

小泉 浩子

湯河原町では毎年5月下旬から6月上旬の16日間、星ヶ山公園さつきの郷でさつき祭りが開催されています。さつきの郷の絶景のロケーション、5万株の色とりどりのさつきの花が咲き誇る中でイベントの一つであるフラダンスに観光ボランティアも参加しました。しかし、誰もフラダンスを踊った経験が無い、でも観光客の皆さんや町民の皆さんに楽しんでもらえるならとおもてなしの心とボランティア精神を發揮しての参加です。練習時間が十分でない本当に少ない日にちの中を素晴らしい集中力で一曲を仕上げました。メンバーは男性と女性の混合で、男性が加わる事で観客の皆さんのお目を引きました。男性は、アロハシャツとズボンにスズランテープのスカート、女性はフラガールの可愛らしい衣装を纏い踊りました。最後の「ゆたぽんファイブと踊ろう」では、観客の皆さんに参加していただき」「カイマナヒラ」で大変盛り上がりいました。



フラチームによる見事なフラ



観光ボランティアメンバーによるフラ



ゆたぽんファイブと踊ろう



小泉先生の艶やかなフラダンス



～ 参加者からの一言 ～

堀井 節子

観ボラ会員も数名参加して見事な踊りの披露、小泉先生の艶やかなフラダンス、「ここはハワイか?」と思わせる様な楽しいひとときを過ごせた良い思い出でした。



黛まどかさんと歩く湯河原吟行会

小口 佳都子

季節のにおう町湯河原を故郷にもつ俳人「黛まどかさんと歩く湯河原吟行会」も、令和2年に20回を迎えました。20年前、文化協会会長故小石川文枝さんらの尽力により、湯河原に「文化の花」を咲かせたいと湯河原文学賞が設定され、その中の俳句部門として発足、第1回、第2回は「俳句のつどい」第3回平成16年より「黛まどかさんと歩く湯河原吟行会」と正式名称となり、観光ボランティアがご案内役としてお手伝いすることになりました。万葉公園文学の小径、渓流沿い、独歩の湯、美術館の庭園、水琴窟、そして旧道を歩いていた時、「この道を藤村や漱石も歩いていたと想像するとワクワクしてきますね」と楽しそうに話された方も。「藤村の宿漱石の宿寒椿」印象に残っている入選句です。平成29年より場所を幕山公園に移し、現在に至っています。令和2年コロナ禍の中でも2,993句の投稿 11月14日「いのちを詠む」黛まどかトークショーが開催されました。27名の受賞者の内、8名が授賞式に臨みました。



まどかさんを囲む参加者達 (H27)



まどかさんと観光ボランティアメンバー (H28)

～ つれづれの記・・・湯河原を詠った思い出深い句 ～

室伏 由美子

湯河原観光ボランティアの原点である「万葉公園」が、再整備されて、令和3年4月29日オープンした。あまたの施設を手がけた設計者の、新時代にマッチした素晴らしい出来栄えである。

に丹塗りの万葉橋を渡ると直ぐに、万葉歌碑が有る。その左横の階段を上った先数100mの坂道を再整備前は「文学の小径」と名付け、道の傍らに湯河原ゆかりの人達の詩・短歌・俳句等が30本、石碑、木板に書かれていた。どれも皆、大好きな作品でした。なかでも湯河原出身のお二人の句は必ずご案内しました。吉浜在住の力石郷水氏の“頼朝の 陣立て石に 飛花落花”治承4年8月石橋山の合戦の出陣式を詠んだものですが、相反する結末を飛花(勝)、落花(負)の二語で表している熟練さには感服しました。町内宮上地区にお住まいの、まどかさんの父君黛執氏の“汐ざいの いづくへ月の 蜜柑山”「湯河原の情景をこんなにきれいに詠んで下さり有り難うございます」と、心で御礼を言っていました。再整備後は万葉歌碑を残すのみとなりました。慣れ親しんで御案内してきた歌碑が無くなり、とても淋しく、懐かしく思い出されるのは、ひとり私だけでしょうか。



文学の小径に設けられていた俳句木板



二・二六事件資料館 光風荘 河野壽大尉の遺品

室伏 由美子

ひとりの中年男性に光風荘を御案内し、最後に「何か御質問などございましたら」と申しますと、「風早書林 代表河野進」という名刺をいただき、「河野大尉の甥の進さんですか?」「そうです」と云うことで色々お話を伺わせていただく事が出来ました。

「叔父の遺品は全部実家（河野司宅）で管理しておりましたが、実家が火事で全焼してしまい、全てが灰になってしまいました。ところが、自決時のナイフをはじめ、現在光風荘に展示してある品々は、何故かその時、私の家に有り焼失を免れました。」という話には大変驚きました。どうしても成功させたかったのに未遂に終わった二・二六事件、決起した青年将校達の後世まで必ずこの事件のことを伝えて欲しいとの怨念が通じ、焼け残った物と思わずにはいられません。展示品を見る度に、大切な物をお預かりしているのだ、心して御案内しなければと肝に銘じております。



河野大尉の展示コーナーにて



焼失を免れた数々の遺品を前に



光風荘での思い出

清水ミヨ子

入会したての頃の出来事です。光風荘を閉館する間際に2人の男性が案内を希望され、私しか対応ができない状況であった為、館内を歩きながら自分にできる精一杯の案内をしました。お帰りの際「ありがとう」との言葉と「無理をさせましたね」と言うやさしい眼差しを頂いた事、今も忘れません。

予約案内ができるよう成長した頃、大阪の御姉妹を案内しました。お姉さんが私と同じ年と分かり話も弾みました。帰り際に「年賀状を下さい」と住所を渡され年賀状のやりとりも3回目を迎えています。因みに住所は光風台。これからも一期一会を大切に活動に励みたいと思います。



今も続くお客様との交流



残された遺族の方々を想うと切ないです…



光風荘に携わって

児玉 静夫

私は現在観光ボランティア副会長を担っていますが、もう一つ光風荘保存会の副会長としても活動しております。この2つの立場で、光風荘に感じていることや想いを述べさせて頂きます。

光風荘保存会は平成15年に発足をし、私は平成17年よりその一員として加わりました。この保存会からの委託で、観光ボランティアが光風荘の開館・館内ガイドを行うようになったのは平成15年7月5日で、早20年になります。来館者は平成23年5月末に累計3万人となり、平成28年12月3日に5万人に達しました。年平均3,500人の来館者を数えた事になります。5万人目の節目では、来館者へ富田町長から記念品を贈呈すると共に「くす玉」を割り、「祝5万人達成」の垂れ幕の前で記念写真を撮るセレモニーを行いました。



5万人目の来館者と富田町長・
前観光ボランティア会長板垣さん



5万人のお客さんを館内ガイド



読賣新聞掲載記事

二・二六事件の資料館たるものは、全国でわが光風荘のみとなつており、全国紙でも取り上げられています。平成30年8月から10月にかけて、毎日新聞の夕刊で「新20世紀遺跡」のテーマで3回に渡り、光風荘での湯河原襲撃を中心とした事件内容と展示品が掲載されました。続いて讀賣新聞で令和2年1月12日版の「レジェンドかながわ」に展示品内容や我々のガイド活動内容が紹介されました。この事は、歴史の中で重要な遺産である事を物語っているのではないでしょうか。大切にして行かなければならぬと改めて認識させられます。

なお、光風荘は民間企業が所有しているものを、光風荘保存会が借りている形態であります。この昭和時代の大クーデター未遂事件の二・二六事件資料館を歴史の証言遺産として末永く歴史証言として役立てて行くために、保存会からさらに町全体で管理運営する形態を願って活動したいと思っています。



研修活動の足跡

「伊豆の源頼朝・北条時政の史跡を訪ねる」

佐藤 由利江

郷土の英雄 土肥実平がつかえた源頼朝の痕跡を伊豆に求めて1日研修をH29. 11. 7 実施した。訪ねる箇所が広範囲に及ぶため下見も1日がかりで行う。

当時土肥会の理事をされていた加藤雅喜氏の案内で、総勢25名が役場のマイクロバスで移動する。
三島大社－北条邸跡－政子産湯井戸－願成就院（時政墓）－山木判官兼隆邸跡－香山寺（兼隆墓）－
城池（江川邸裏）（昼食）－蛭ヶ小島（頼朝配流地）－修禅寺－指月殿－源頼家墓－十三士墓を訪ね鎌倉時代へとタイムスリップした様な行程であった。



頼朝・政子像の前で

下見の時、昼食場所にと決めていた城池周辺が研修当日に「立ち入り禁止」看板で大慌てした事などもあったが何とか乗り切る。蛭ヶ小島頼朝夫婦像前と修禅寺門前で記念写真に収まり、少しの時間ではあったが散策を楽しみ帰途につく。後日、加藤氏の手配で地元紙に研修内容が写真と共に大きく紹介された。



バス研修旅行に参加して

小野 英子

総勢31名でバス研修旅行に行きました。晴天に恵まれ車の渋滞もなく千葉県野田市関宿に到着。先ずは関宿城博物館へ。関宿藩の歴史、水運で高瀬舟が往航し河岸問屋や宿場も栄えた地域と知る。

次は愈々念願の「鈴木貫太郎記念館」です。多くの遺品、「最後の御前会議写真」他、事績を偲ぶ展示品に見入る。日清・日露戦争では海軍で活躍。昭和20年、天皇に懇願され「軍人は政治に関与せざるべし」の信念を曲げて總理となり、戦争終結の大任を果たす。昭和天皇に「私の父の様だ」と慕われた人物。タカ夫人は幼稚園保母の実力を推挙され、昭和天皇4歳から養育係を拝受、天皇曰く「タカには母親同様に親しく接した」と。昭和天皇と夫妻の強い絆が推し量れます。貫太郎夫人としては常に的確な助言者で、二・二六事件襲撃時は気丈に夫を守り、晩年、関宿へ転居後は酪農



鈴木貫太郎記念館前で

振興、地域発展に多大な貢献をされ、女性初の名誉町民に。最後は、「実相寺」での墓参も行い有意義な研修を終了。帰路の車中は楽しい親睦の場になりました。



実相寺での墓参り



合同研修ガイドを担当して

広井 治夫

平成 28 年の 11 月に「かながわガイド協議会・合同研修会」が湯河原で開催された。18 団体 96 名をお迎えし、午前中は観光会館で土肥会の加藤雅喜氏による「湯河原の歴史講演」と「焼亡の舞」午後は温泉場散策コース（万葉公園～不動滝）と神社仏閣を訪ねる歴史コース（保善院～五所神社～城願寺）の 2 コースに分かれて交流会が行われた。この研修会には会員皆が駆でのお出迎えから研修会場への案内まで何らかの役割を担い全員参加で取り組んだ。



老舗旅館前で温泉ガイド

平成 30 年 10 月には「県西ボランティアガイドの会・合同研修交流会」も行われた。8 団体 54 名をお迎えし、午前中は県温泉地学研究所の萬年一剛主任研究員による「湯河原火山と湯河原温泉」と題した講演、午後の交流会は 4 班に分かれ、郷土資料館～光風荘～湯元通り～美術館を案内した。私は、かながわガイド研修会の時は入会 2 年目で、合同研修会は初めての経験でしたが温泉場コースのガイドを担当、県西交流会でもガイドをさせて

もらいました。今思い出すと、日頃各地でガイドをされている方々に、にわか勉強でのガイドは冷や汗ものでしたが当時は皆何とか成功させようと必死で取り組んでいました。研修会参加者から「湯河原の皆さんからおもてなしの心を感じました」との感想を聞き、うれしかったこと、その後の活動の励みになったことを思い出します。



二.二六事件現場を巡る

川久保 勲

二.二六事件資料館「光風荘」の案内技術を高める為に、東京の事件現場を巡る研修を実施。企画、引率、案内を小職が引き受け H29. 7. 12 と 11. 13 の 2 回行った。

1 回目の 7. 12 は二十二士の内十五士が処刑された日であり、賢崇寺では法要も行われていた。行程は以下のとおり。

歩兵第一連隊跡(六本木東京ミッドタウン) — 首相官邸 — 陸相官邸・陸軍省・参謀本部跡(国会議事堂前庭・憲政記念館) — 賢崇寺二十二士墓参 — 近衛第三連隊跡(赤坂 TBS) — 高橋是清邸跡 — 陸軍刑務所跡の二.二六事件慰靈像(渋谷 NHK 前)

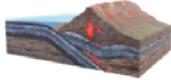
2 回目の行程は以下の通り。

歩兵第三連隊跡(乃木坂駅・国立新美術館) — 赤坂御用地 — 学習院初等科 — 斎藤実邸跡 — 鈴木貫太郎侍従邸跡 (千鳥ヶ淵戦没者墓苑北隣り宮内庁分室)

夜まで続く一日がかりの研修となった。「疲れた」を連呼する会員もいたが、実際に歩いてみて行軍の感覚を掴む事が出来た実りある研修となつた。



渋谷 NHK 前の二.二六事件慰靈像



ジオパーク活動への取り組み

～写真で見るジオパーク活動～

ジオガイド活動



フィールド講座湯河原開催 (H30)



幕山ジオガイド (R1)



認定審査 カツラゴ海岸にて (R2)

会員のスキルアップ活動

我が町の探訪



南郷山 (H27)



六方の滝 (H28)



釜石丁場跡 (R1)



幕山 (R1)



湯河原海岸 (R1)



南郷山周辺地質観察 (R2)

各種座学講座受講



4~5回/年

他地域のフィールド講座受講



真鶴 (H29)



南足柄 (H29)



全国大会・霧島 (H27)



小田原・一夜城 (H30)



箱根 (H29)



箱根ジオパーク発足の頃の思い出

林 明徳

平成 23 年 5 月に、取得に向けての準備組織「箱根ジオパーク推進協議会」が一市三町の首長を代表者として発足した。我々観光ボランティアも町からの要請を受けて参加することになった。8 月からジオパークガイド養成講座が始まり、幕山公園でガイド活動をしていたグループを中心核に 7 名ほどの会員が受講した。地球博物館や温泉地学研究所の学芸員・研究員の先生方から地球の構造・火山・地質等についての座学とジオサイト予定地での現地訓練と交互に毎月行われた。

箱根ジオパークを地元に広めるため、審査の数ヶ月前の 4 月から我々の学習の成果を元に、講師の先生方の指導の下、神静民報に「箱根ジオパークへの道」の連載記事（湯河原分 N0. 7. 8. 9）を掲載した。

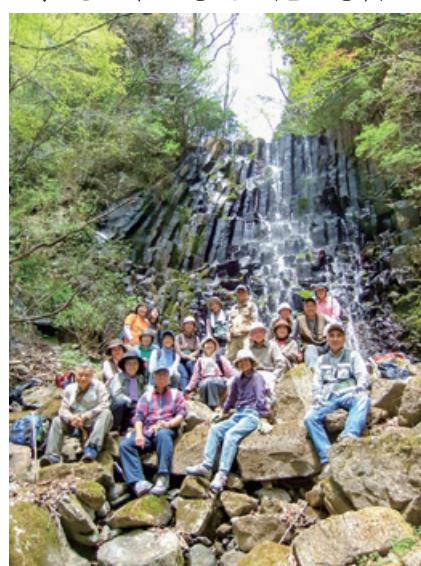


幕山での現地審査ガイド

現地審査は同年 8 月 22、23 日に行われ、初日は箱根を廻った後に椿ラインを下り、しとどの窟、不動滝、湯河原温泉源泉を、2 日目は城願寺、幕山をガイドした。11 月に認定通知を受け、箱根ジオパークが誕生した。観光客や地域住民に箱根ジオパークを広く知らしめるため、ジオ看板の設置やガイドブックを作成する一方で、ガイド者の育成マニュアルとしてのガイド

マニュアルなども作成した。

この時期、地元の自然理解のため自然探訪を数多く行つたが、その中でも幻の滝とも言っていた六方の滝の見学会は



柱状節理が見事な六方の滝

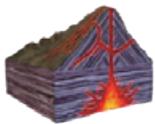
大印象的だった。滝は新崎川の上流に有り、河原の中を大きな石を越え、最後の崖はロープを使って上がらねばならない難コースで、力不足の一部女性の為にロープを体に巻き付けて上から引き上げるなどした。この準備をしたのが、ジオパーク活動発足時に中心となり活躍し、今は観ボラを卒業した小石川さん、廣瀬さん、尾崎さん達の幕山公園を主体に活動していた人達であった。今思い起こすと、認定取得は大変な労力と情熱を要したと改めて感じている。



神静民報「箱根ジオパークへの道」



苦労の上完成させたガイド
マニュアルとガイドブック



日本ジオパークネットワーク 関東大会 伊豆大島大会へ参加して

山口 光彦

2019年11月に伊豆大島ジオパークを会場とした関東大会が開催され、児玉・広井両副会長と共に参加しました。

大島は熱海港から45分で行ける距離に有り、面積91km²、人口7,300人の伊豆諸島最大の島です。大島と言えば、多くの方は三原山を連想すると思います。當時活動中の火山で、昭和61年には全島民が島外へ避難する大噴火が起きていました。この時の相模灘を埋める避難救助船や夜空に燃える三原山など湯河原海岸から眺められた光景が今でも忘れられません。大島町長の「ジオ活動は島の観光や防災に直接結びついている活動で、まさに私たちの生活そのものを支えてくれている。」の挨拶は決して誇張された表現ではないと感じました。

島内は見所が多く、大会2日目のジオツアーハーでは、自然の造詣をジオガイドさんの解説で深く観ることが出来ました。大島が海上に姿を現したのは2万年前だそうです。当地を形成した湯河原火山が活動していた頃は無かった事になり、また新たな景色に気付かされた機会になりました。

左側縦型ポスター：第6回 日本ジオパークネットワーク 関東大会 in 伊豆大島

1. 大会実行委員の方達による出迎え

2. 箱根ジオパークからの参加者達と

3. ガイドさん 手作りのパネル・グッズで、アクション！

4. 大会2日目ジオツアー風景

5. 地球のバームクーヘン、
2万年の活動が積み重なっている！

6. ご存じ波浮港！火口湖だったものが、その後の大噴火・津波で一部が崩れ海とつながったもの

見送り、皆最後まで一生懸命でした



現状への想いと将来への展望 座談会

令和3年1月20日（水） 13:00～15:00 於：子育て支援センターゆたぽん2階
出席者（会員歴）：中村妙子（21）、室伏由美子（21）、児玉静夫（18）、川久保勲（15）、
林明徳（12）、東里江（12）、堀井節子（12）、広井治夫（7）、
竹村真佐枝（6）、山口光彦（5）、阿部由紀子（3）
司会進行：佐藤由利江（8）

司会：本日は会員歴20年の大ベテランから3～4年の若手まで各層の代表にお集まり頂きテーマに沿って座談会を進めて行きたいと思います。
早速、現状への想いから始めます。変化という点では予約案内の有料化は大きかったと思いますがどうでしょう。



コロナ禍、マスクをしてスペース確保での進行

- 東：反対もあったが多数決で有料化に決定。当時、自分が会計を担当していた。光風荘保存会との連絡が上手に取れていなかつたのか、会の規約通り半額を保存会に持参したところ受け取りを拒否された事を思い出す。結局、保存会に差し上げるお金は観光ボランティアの収入となった。
- 川久保：当時、有料化に賛成した。東会計がよくやって下さった事もあり、結果的には有料化にして良かったと思う。
- 竹村：お金を頂くと言うことは案内のレベルを上げて力量の均一化を図ることが重要だと思ったし、それだけの重みがあった。
- 広井：入会した年に有料化の議論があり自分は反対した。今、東さんからの裏話を聞きやり取りから学ぶこともある。観光に対する想いは一緒でもコミュニケーションをしっかりとることを今後の活動の中に活かしていかねばと思う。
- 堀井：自分に自信が無かったので最初は反対だったが、みんなの意見を聞いているうちにやれるかなと思う気持ちが強くなり賛成した。今思えば有料化で良かった。
- 中村：有料化以前からガイドの謝礼をお客さまから頂く事もあった。お医者様から頂いた謝礼は金額が大きくビックリして会に収めた事もあった。今や有料は普通だし、ガイド力向上につとめるのは当たり前のことである。
- 室伏：お金を頂くからにはと普段に増して事前準備も怠らなかつたし、気持ちよく頂戴することができた。有料化に踏み切って良かったと思う。
- 東：有料化前は手土産を持参されたりして気を使われたお客様もいたが、有料化は金額も明確になり、予約の増大につながり、有料化は結果として良かったと思う。

司会：有料化は実施して良かったと言う結論付けになりますね。話題を変えましょう。

- 山口：ジオ活動に興味があつて入会したがジオ活動をする会員が少ない事が不安。湯河原の活動が鈍り箱根ジオパークの2市2町に迷惑がかかつてしまう事だけは避けたいと思う。

川久保：還暦を過ぎたころ温泉療養の為に湯河原に越してきた。近くの光風荘を案内してもらったのが室伏さんであった。元来歴史好きだった事もあり、入会後は二・二六事件資料館のガイドに魅力を感じると共に今や生き甲斐となっている。

室伏：光風荘を案内する事がとても勉強になつたし、光風荘には事件の関係者も来館され直接いろいろな事が聞けたのは大きな財産となった。今はコロナの影響で閉館しているが、1日も早く再開できる事を待ち望んでいる。みんなで楽しくガイドしようと。

中村：噂話で天野屋の庭に幸徳秋水の神社があったが自分は報徳神社と思い込んでいたと言うくらい町のことになると疎かだった。しかし、自分でも調べたりしながら勉強に勉強を重ね楽しい時間を過ごした。この20年の活動で納得したこと多々ある。

竹村：光風荘のガイドは大好きです。予約のお客様の興味も濃淡ありますが、特に学校などで教鞭を取っていた方のお話が印象に残っている。自分の知らない話などを吸収してガイドに活かしている。

堀井：入会前に観光案内をしていたので万葉公園や光風荘など知っていたが研修で深く知ることができた。特に千葉県の鋸南町など現地に行っての研修は心に残っている。とても良かった。

室伏：観光ボランティアの原点は万葉公園であった。当時の会長の叱咤激励で公園内にある独歩の湯(足湯)まで案内に行った思い出がある。5往復もするとクタクタに疲れた記憶が蘇る。

児玉：駅前の実平夫婦像は銅像としての印象が無かった。しかし、土肥実平を勉強するにつれ、実平と城願寺、城願寺と皇室とのかかわりなどを学び歴史コースに力を注いだ。駅前案内が休止になる前に駅前で声掛けしたお客様が広島の方で、小早川家の祖である実平の菩提寺城願寺を案内してとても喜んでもらえた偶然が印象に残る。

広井：おおらかなボランティア活動と思っていたら、万葉公園や光風荘、歴史など次々と難しい学習が待ち構えている事に驚かされた。湯河原に生まれ育った自分にできることは何かを考えた時に温泉場散策コースがフィットした。このコースをもっと多くの会員が携わることを希望している。

阿部：ミニ研修会で行った奥湯河原の紅葉は最高で、みんなにこの感動を分けてあげたいと素直に思ったし、湯河原らしさに触れてさらにガイド意欲も高まった。

東：横浜から湯河原に転居して来た。お客様を案内している時、通りを歩いていた人から「あら東さんここで何しているの？」と声をかけられた。横浜に住んでいた時の近所の方だった。よくよく考えてみると湯河原に転居することを伝えていなかつたことが判明、偶然が交流の再開となり観光にもつながった思い出がある。

竹村：自分も偶然を思い出した。万葉公園を案内していたら、横浜に住んでいた地域のバスを発見し眺めていたら「竹村さん何をしているの？」と近所だった人から声をかけられた。好きなガイドをしている時の偶然に幸せを感じている。

川久保：二・二六事件に関わった青年将校の一人である河野大尉の自決に剃刀ではなく何故果物ナイフが使用されたかを説明した時に涙を流しながら聞いてくれたお客様に感動したことが印象深い。アドバルーンを知らない世代にも驚いたが歴史に关心を持って来館してくれた事を嬉しく思う。

室伏：二十二士のお墓のある麻布賢崇寺の本堂に青年将校の遺品がたくさんあった。獄中での行動が立派だったからと、看守から遺品が仏心会へ渡されたそうだ。その後、仏心会から防衛省に寄贈されたと聞き残念でしかたがない。あれだけの量の遺品を光風荘に寄贈して頂けていたならばと思った気持ちを消すことはできない。

司会：たくさんの想いをありがとうございました。ここからはテーマを替えて将来への展望についてお話下さい。

山口：ジオに関わることとして鍛冶屋の製鉄について調べ、疑問を解き明かしたい。

広井：これから活動として湯河原のいい所を発見し、駅を起点にミニガイドをしたらどうかと思っている。近場の名所や自然や花など季節感漂う題材はたくさんある。自分の興味がある題材を取り上げていけば楽しさも倍増するし、ジオにも通じる。

阿部：自分もマンションに住んでいるがマンションの居住者は湯河原の歴史など知らない人が多いと感じた。もっともっと湯河原の魅力を発信していくことも、これからの活動に必要だと思うのでミニガイドは賛成。

堀井：駅でのパンフレット活動が近場の案内も同時に出来たので良かったと思うが以前のように駅前活動を復活させたい。

室伏：駅前案内は重要だと思うので、できる方法を模索して復活にこぎ付けたい。

児玉：駅前観光案内所の一角を確保して、そこに詰めるのが一番良い。

室伏：もう少し若い方にボランティア活動に参加を促す手立ても必要だ。

広井：これからを睨んで、案内の仕組みの再構築をしたらどうか？これによって駅前活動を組み込む事も可能だと思う。今までの固定観念にとらわれず前向にみんなで取り組めば活動も楽しくなり、若い人達を巻き込む事にもつながると思う。活動のオプションを広げよう。

司会：将来への展望も熱く伝わってきたところでこの座談会を終わりたいと思います。最後に林会長から一言お願い致します。

林：一昨年の統計では 370 万人の観光客を迎える 69 万人の宿泊を数字が示している。箱根の 2,000 万人には遠く及ばないが相当な観光地であることは間違いない。ガイド組織としてニーズにできる限り対応していきたい。その対応には楽しいことばかりではなく、時として義務感もともなう。平均年齢が後期高齢者の年齢に等しいことも悩ましい。これからの中長期では NPO 法人化も視野に入れないといけないのだろう。



最後に皆でマスクをしての記念撮影

故人を偲ぶ



故小石川文枝氏
平成 26 年逝去
(入会平成 12 年)

小石川文枝さんとは観光ボランティア発足以前の平成 4 年頃から親しくさせていただいておりましたので一緒に入会しました。社会教育委員や図書館審議委員など町と多くの関わりを持たれていました。趣味の水彩画や川柳も素晴らしい出来映えで、何事にも前向きでさり気なく処してゆく姿には脱帽でした。その忙しい日々の中では誘い合って「飲み」「食し」「語り合う」事が楽しみでした。

与謝野晶子が滞在していた真珠荘の話などは観光ボランティアの講座で何度も語られていたが、平成 26 年 11 月 13 日に旅立たれました。もう 7 回忌になるのですね。今頃はきっと敬愛して止まぬ与謝野晶子女史と共に真珠荘の庭から大島を眺めながら、「大島桜も切られてしまい寂しいですね・・・」などと語り合っていらっしゃるかも知れません。

合掌
(中村妙子記)



故莊子喜美子氏
令和 2 年逝去
(入会平成 26 年)

莊子喜美子さんは 2020 年 3 月 22 日まだ 50 歳代の若さで病のため突然お亡くなりになりました。彼女と私は 2014 年に一緒に新人研修を受けた同期生、その後、会員有志による英会話教室 (ECS) で共に学んだり、一緒に役員になりガイドマニュアル作成に苦労したりと観ボラの中では同じような歩みをしてきました。新人研修のとき、共に研修の在り方に愚痴をこぼしたこと、私の顔色を見て疲れていると背中をもんでくれ、指圧師のプロである彼女の指先の力強さに悲鳴を上げたことなどが思い出されます。年代も性別も違いましたが気兼ねなく交友し、同時期に東京から湯河原に移住してきた彼女が U ターン組の私以上に町の情報通となっていることに大いに刺激を受けました。今でも町で自転車をこいでいる女性を見かけると彼女の姿がよみがえります。

ご主人から頂戴したメールの一文を紹介させてもらい、私の追悼文を終わります。
「喜美子も観光ボランティア活動等を楽しみに暮らしていました。これも皆様方のおかげと感謝しております。皆様方のご健康とご活躍を願いつつお礼申しあげます。」

合掌
(広井治夫記)



会員紹介（加入年順）

杉本祐次 平成 12 年入会	二・二六事件資料館を中心 に活動しています。オープ ン当初から毎週1日のガイ ドを 20 年続けてきました が、近年は高校の日本史が 必修科目となり、学習意欲 の高い学生が来館されま す。従来とはまた違った切 り口でのガイドを求めら れています。	中村妙子 平成 12 年入会	お客様から「お元気でいつ までも続けてくださいね」 などと言われる事を励み に、動作はゆっくりだが、し っかりと心を込めて、この 自然に恵まれた湯の町を紹 介してゆきたいと 20 周年を 迎え改めて決意していま す。
室伏由美子 平成 12 年入会	観光ボランティア設立の 2 年位前から役場主催の 研修を大勢の方と受講し ましたが、発足時の入会者 は 6 名だけでした。その仲 間も今は 3 名です。出来る 限り続けていこうと思っ ておりますのでご支援ご 協力を宜しくお願ひ致し ます。	小口佳都子 平成 13 年入会	20 年近い活動の中で、歴史 につながる人々との出会い は貴重な体験となりま した。幸徳秋水の妻ルイの生 涯を一冊にまとめ出版され た人とは今も文通が続いて います。歳を取っても学び あえる友が出来ることは幸 せな事です。ボランティア 活動に感謝！！
児玉静夫 平成 15 年入会	観光ガイド活動で早 18 年 になります。活動していく 有意義だったことはお客 様から「ガイドをお願いし て、案内板やパンフでは解 らない深い事が良く解り ました。」と言う言葉が頂 けた時です。	深澤昌光 平成 18 年入会	駅前の案内が休止してお り、あまり活動出来ていま せんが、丁寧なご案内とお もてなしの心で、湯河原の リピーターになって頂く様 に心がけています。土肥実 平を中心に歴史ガイドにも 力を入れ、町の発展に寄与 したい。
三上冴子 平成 18 年入会	10 年を越す湯河原の生活 と共に、観光ボランティア の活動を楽しんでいます。 新聞に「待ち望む麒麟では なくコロナ来て想定外の 世の中となる」と句の記載 があり、私達も「ウイズコ ロナ」の活動にならざるを得 ないのでしょう。	川久保勲 平成 18 年入会	観ボラに入会して、一番良 かったことは 2.26 事件に遭 遇したことです。2.26 事件 を勉強すると、昭和史の流 れが分かり、また世界史と も結びつき、これを探求す ることは私の老後の生き甲 斐の一つとなりました。

林明徳 平成 21 年入会	平成 30 年 11 月、慶応のワグネルソサエティーOB 会 16 人に温泉場散策コースのガイドをしました。ガイドの御礼にと、ダークダックスの後輩だと言う皆様が、コーラスをしてくれました。素晴らしいハーモニーの洒落たプレゼントに感動した晩秋の 1 日でした。	林徳子 平成 21 年入会	毎日色々の人にお会いする機会が多く、常に町の観光パンフレット等を持ち歩いています。引っ越して来たばかりの人には特に喜ばれています。一声がきっかけで友達も増えて行きます。
堀井節子 平成 21 年入会	観光ボランティアに入会して 12 年、町の歴史の奥深さに感動したり、案内するお客様との会話のキャッチボールを楽しんだり、有意義な日々を過ごしています。今後も初心を忘れず、楽しみながら活動しようと思います。	小野英子 平成 21 年入会	一昔余の歳月、辞めたいと思った事は一度も無く楽しい日々。正に「継続は力」を実感。今後はコロナ禍で活動休止中の空虚感を踏み台に、皆様との一期一会を大切に、愛する湯河原のガイドを暫く続けられたら幸せです。
東里江 平成 21 年入会	ガイドに携わってあつという間の十余年、湯河原の案内人として日々努めてきました。歴史、文学、風光明媚な地形に恵まれた観光地湯河原を「ピーアール」し続けたい。	小澤朝子 平成 21 年入会	観光ボランティア発足して 20 年、私はまだ 12 年で、知らない事ばかりです。小さな町の小さな歴史有る町、町民の皆様、自分の住んでいる町をもっと知ろうではありませんか。この記念すべき 20 周年の年に。
小泉浩子 平成 25 年入会	養成講座後、ガイドの一歩が踏み出せないでいた時に先輩が「お客様、今日デビューしますので宜しくお願いします」と云って私の背中を押してくれたその日、その一言で現在もガイドを続けています。今も尚勉強中です。	佐藤由利江 平成 25 年入会	自宅に遊びに来る友人たちに町の観光スポットを案内できれば良いなと思い軽い気持ちで入会しました。諸先輩方の後ろ姿を追って早 8 年経ちますが、観光のお客様からの励ましを糧にこれからも頑張ってまいります。

高橋弘子 平成 25 年入会	終の住みかと決め移り住んだ湯河原、町の事を知りたくて観光ボランティアに入会しました。仕事を続けていてなかなか活動に参加出来ませんが、笑顔でご案内出来る様に先輩の皆様から学び一助を担いたい。	広井治夫 平成 26 年入会	年を重ね帰省するたびに湯河原の自然に心を惹かれるようになり、退職を機に大阪から U ターンしてきました。お客様に道案内ぐらいは出来るかと観光ボランティアに入り、多少でもお役に立てればとの思いで活動しております。
竹村真佐枝 平成 27 年入会	古稀を迎えた 40 年ぶりに生まれ育った湯河原に戻った私。湯河原を訪れたお客様にはおもてなしを、暮らす私達には居心地の良い豊かな町を、その一助になればと観光ボランティアを選ぶ。それが今、私に出来ること。	清水ミヨ子 平成 28 年入会	観光ボランティアに入会して 5 年となります。入会当時の会長は板垣博夫氏でした。会長の熱心な指導に引き込まれました。又、会員の方達のやさしさ親切さに、とても心地が良く、知らなかつた事を知り感謝しています。
古館美恵子 平成 28 年入会	平成 28 年に転入し、7 月に観光ボランティアに入会しました。未知の町でしたが、時を経る程に湯河原が好きになりました。来訪してくださる方々に、湯河原の素晴らしさを伝えて行きたいと思います。	山口光彦 平成 28 年入会	箱根ジオパークの活動に興味があり入会しました。大地は長い時間をかけて想像を絶する動きをしていて、私たちはジオ(大地)に生かされている事に気づかされます。この心を失わずに、自然と向き合って行きたいですね。
鷺見治義 平成 29 年入会	私の活動に大切な道具がオモテナシの知。その知について学んだ三つの事。 ① 知は治 天皇制に依る文治 VS 統帥権拠る法治 VS 大和魂の人治の擦乱が史劇。 ② 知は血 歴史は血湧き肉躍る人間劇。 ③ 知は恥 恥が意欲を刺激し謙虚に。	阿部由紀子 平成 30 年入会	先輩方の歴史、文学、地学に長けた研究熱心で旺盛な活動力に圧倒されました。私に出来るか疑問でしたが、活動に参加し、自信がつきました。東京生まれの江戸っ子気質で明るく活動します。

柴山秀男 平成 30 年入会	湯河原に転居して四年になります。地域の事を知りたくて観ボラに入会しました。先輩方のご教授で、沢山の事を知りました。これからは教わった事や調べた事を出来るだけ人に伝えて行こうと思っています。	山本光子 令和元年入会	観光ボランティアに入会し、湯河原の歴史等いろいろ教えていただきました。たいした活動も出来ず大変申し訳無いと思っていますが、これからも頑張ります。
大島洋子 令和元年入会	「湯河原観光で見所ありますか？」と聞かれることが多くなり、観光ボランティア入門講座全8回を受講しました。現地研修では緊張の連続でしたが、先輩の解りやすい指導に助けられました。今後は「お客様の心に残る湯河原」を心掛けガイドしてゆきます。	岡部眞貴子 令和 2 年入会	入会動機は、もっと湯河原を知りたいという思いです。ところが、4月からはコロナで活動がストップになりました。2021 年からは徐々に活動が出来る様になるとのことで、今後の活動を楽しみに待っている所です。
水野圭子 令和 3 年入会	湯河原で鍼灸マッサージ治療室を開業して約 15 年。湯河原は第 2 の故郷になりました。海と山に囲まれ、万葉集に詠われた湯河原温泉の魅力を一人でも多くの方に知っていただきたいと考えております。		

古より湧き出でる湯と
四季の織りなす自然美豊かな“湯河原”
この愛する郷土の発展を願って
私達に出来ることを今やって行こう！



入会希望者は随時受付中！

お問合せは 湯河原町役場 地域政策課

☎0465-63-2111（内線 232）まで



歴代の役員

平成 26 年度より、役員の増員を実施

年度	会長	副会長	幹事	会計	監査
平成 24年度 25年度	杉本 祐次	児玉 静夫 林 明徳	入澤 静子	小野 英子	小澤 朝子
26年度 27年度	板垣 博夫	三上 洸子 林 明徳	川久保 勲 高橋 総典 入澤 静子 佐藤 由利江 小島 朝次	東 里江	廣瀬 繁藏
28年度 29年度	板垣 博夫	佐藤 由利江 木原 栄一	林 明徳 高津 郁夫 竹村 真佐枝 斎藤 真由美(*) 綾田 陽一	東 里江	廣瀬 繁藏
30年度 令和元年	林 明徳	児玉 静夫 佐藤 由利江	小泉 浩子 莊子 喜美子 広井 治夫 綾田 陽一 山口 光彦	古館 美恵子	小野 英子
2年度 3年度	林 明徳	児玉 静夫 広井 治夫	佐藤 由利江 小泉 浩子 山口 光彦 柴山 秀男	古館 美恵子	小野 英子

* : 退会により 28 年度のみ



温泉、この大地の恵に感謝！！

東歌 3368 が刻まれている万葉歌碑



万葉集卷十四
東歌三三六八

阿之我利能
あしがりの

刀比能可布知爾
とひのかふちに

伊豆流湯能
いづるゆの

余爾母多欲良爾
よにもたよらに

故呂河伊波奈久爾
ころがいはなくに

■発行

湯河原観光ボランティア

〒259-0392 神奈川県足柄下郡湯河原町中央2丁目2番地1

湯河原町役場地域政策課内

Tel : 0465-63-2111 (内線 232) Fax : 0465-62-1991 Mail:kikaku@town.yugawara.kanagawa.jp

■編集

湯河原観光ボランティア 記念誌編集委員会

■撮影協力

さいとう眞由美

■発行日

令和4年1月26日

■印刷製本

(有)タケダ印刷